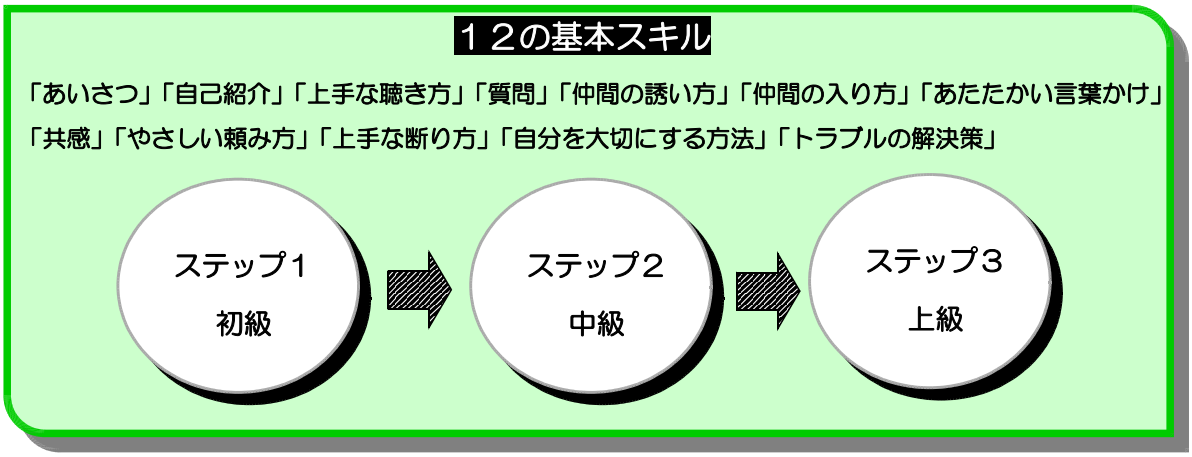
４　研究２　児童生徒の活動プログラムの作成

児童生徒にとって必要なソーシャル・スキルの種類は、研究者によっても様々である。それは、その目的や実施する者の立場によって多様な考え方がなされているからである。本研究では、学校で実践的に活用できるという視点から、小林、相川（1999）らが提示した１２の基本スキルをもとに活動プログラムを作成することとした。１２の基本スキルとは、「あいさつ」「自己紹介」「上手な聴き方」「質問」「仲間の誘い方」「仲間の入り方」「あたたかい言葉かけ」「気持ちをわかって働きかける方法」（本プログラムにおいては「共感」と名付けた）「やさしい頼み方」「上手な断り方」「自分を大切にする方法」「トラブルの解決策」である。さらにこれらのスキルを獲得するための活動プログラムは、児童生徒の校種や年齢に応じて活動内容等を考慮する必要があることから、発達段階に応じたより実践的なトレーニングプログラムにするために初級（小学生向け）・中級（中学生向け）・上級（高校生向け）と３段階にステップを分け、作成を試み、各学校が段階に応じて活動プログラムを活用できるようにした。

ここで留意したいことは、この初級・中級・上級の区別は、厳密なものとして捉えるのではなく、あくまでも児童生徒の実態に応じた活用が望ましいということである。つまり、児童生徒のスキルの獲得状況によっては、小学校で中級のプログラムを改良し活用することや高校で中級プログラムを活用することも考えられるということである。また、この活動プログラムは、あくまでも一つのモデルであり、学校において、より実践的で活用しやすいプログラムに変更しても何ら差し障りのあるものではない。むしろ、学校において、多くの教職員がその学校の児童生徒の実態にあわせて自校の児童生徒に適した活動プログラムを作成していくことで、教職員の意識を高め、児童生徒への指導はより効果的になると考える。

以下に初級・中級・上級のそれぞれ１２のスキルを掲載する。

＊本研究で実施するソーシャル・スキル・トレーニングの基本的な考え方及び指導手順等については、「研究３　教職員研修プログラムの作成　■研修の実際」を参照。